



放送のこれからを見据えて

情報流通行政局放送政策課事業振興係長

林田 雄亮

HAYASHIDA Yusuke

平成16年10月 総務省採用
 情報通信政策局総合政策課
 平成18年 8月 大臣官房秘書課
 平成20年 7月 総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課
 平成22年 4月 総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課
 基幹通信係長心得
 平成22年 7月 総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課
 企画係長心得
 平成23年 4月 人事院行政官国内研究員(京都大学大学院)
 平成25年 4月 情報通信国際戦略局国際政策課総括係長
 平成27年 8月 現職

■“身近な”放送と環境変化

テレビ放送やラジオ放送では、毎日、ニュースやドラマ、バラエティ、スポーツなど様々なジャンルの番組が流れており、放送は私たちの生活にとって非常に「身近」な存在だと言えます。一方、災害時には、刻一刻と変わる状況を伝えるライフラインとして機能するなど、社会で重要な役割を担っています。

しかし、近年、放送を取り巻く環境は変化しています。テレビの高画質化が進む一方で、スマートフォンやタブレットが爆発的に普及し、放送だけでなく、インターネット経由で様々な動画が視聴できるようになりました。このように、放送を取り巻く環境が大きく変化する中で、放送が引き続き社会で重要な役割を果たしていくための一助となるべく、国内の最新の動向をフォローし、過去の歴史や経緯を確認し、諸外国の状況なども調査するなど、日々の業務に取り組んでいます。

■変化の激しい情報通信の世界

情報通信の世界は、テレビや携帯電話など身の回りの端末をみても、私が入省した10数年前からの進歩は著しく、この先の10年後も、今とは大きく違った世界になっているはずです。このように、変化の激しい情報通信の世界で、最新の動向を見ながら、制度作りに関わることができるのが、総務省の情報通信行政の業務の魅力と言えると思います。

また、入省後は、多様なキャリアパスがあります。私自身も、省内でインターネットや携帯電話などの電気通信の担当、情報通信分野の国際担当、現在の放送担当など、様々な業務を経験してきたほか、人事院の制度で国内留学も経験しています。総務省では、その他、地方自治体や海外の大使館等への出向など、様々な経験を積む機会が用意されています。

総務省の所掌は非常に幅広く、皆さんが総務省を訪問されれば、きっと自分に合った仕事を見つけることができるはずです。皆さんと一緒に働くことを楽しみにしています。

Question & Answer

Q. 総務省で実際に仕事をしてみて、入省前のイメージと違ったところは？

A. 入省前は役所といえば堅い所、というイメージでしたが、実際に総務省に入省して情報通信部局に配属してみると、思ったよりも職場の雰囲気は柔らかく、自由がある職場だなどという印象を受けました。また、業務の内容についても、入省前に考えていたよりも、様々な分野の物事について、幅広く・深く調べる機会があり、色々なことを勉強できるという意味で、刺激的な職場だと感じました。

Q. 今までで一番印象に残った仕事は？

A. 以前、情報通信分野の国際担当部局で、当時の総務大臣に情報通信技術の売り込みのために海外へ出張に行って頂いた際、広報担当として随行したことがあります。そこで、出張先での先方要人との会談の様子が、国内外のテレビでニュースになっていたのを見たときは、自分たちの成果が形として報じられたということで、充実感があったことが印象に残っています。



Private Life

休日は平日の疲れを癒やしながら、子供と近所の公園に遊びにいたり、植物園に出かけたり、買い物に出かけたりして、家族と一緒に居られる時間を楽しんでいます。まとまった時間がある時は、レンタカーを借りて旅行に行くなどして、リフレッシュしています。

